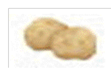
平成27年4月6日
野菜需給部

野菜の需給・価格動向レポート（平成２７年４月６日版）

１　主要野菜の生産出荷状況

種類		３月の価格情報				４月	生育及び価格の4月中旬までの見通し	
		（参考）保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価額			（参考）保証基準額の算定の基となる平均価格		
			上旬	中旬	下旬			
葉茎菜	キャベツ	88.05	62	72	77	84.37	・入荷見込量：19,210（100） ・主産地：神奈川（50）、愛知（36）、千葉（11）	・神奈川産は、最近の気温高に加え適度な降雨により生育は順調であり、引き続き平年よりやや多めの出荷の見込み。愛知産は、一部で最近の気温高により病気の発生が見られるが影響は軽微で全体的に生育は順調であり、引き続き平年並みの出荷の見込み。千葉産は、生育は順調で、主力産地で品種の切替による増加も見込まれることから、引き続き平年よりやや多めの出荷の見込み。 ・神奈川産、愛知産及び千葉産の出荷が、平年並み若しくは平年よりやや多めと見込まれることから、価格は4月以降平年の価格水準が下がる時期となることもあり、平年を下回っている価格は、平年並み若しくは平年を下回って推移する見込み。
		83.73	59	66	63	86.69	・入荷見込量：4,800t（163） ・主産地：愛知（70）、大阪（16）	
	ねぎ（関東は白ねぎ、近畿は青ねぎ）	229.99	234	234	224	264.10	・入荷見込数量：4,050（100） ・主産地：千葉（44）、埼玉（27）、茨城（14）、輸入（4）	・千葉産は、生育は順調で引き続き平年並みの出荷の見込み。埼玉産は、病害虫の発生が見られることから、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。茨城産は、生育は順調で現在平年よりやや多めの出荷であるが、今後は初夏ねぎへの作型の切替もあり平年並みの出荷の見込み。 ・埼玉産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれるものの、千葉産及び茨城産の出荷が平年並みと見込まれることから、4月以降平年の価格水準が上がる時期となることもあり、現在概ね平年並みの価格は平年を下回って推移する見込み。
		450.51	382	348	339	334.73	・入荷見込数量：200t（91） ・主産地：徳島（28）、三重（19）、奈良（15）、香川（15）、高知（7）、大阪（6）	
	はくさい	61.12	52	73	74	67.05	・入荷見込量：6,260t（100） ・主産地：茨城（80）	・茨城産は、春作の出荷が始まり、病害の発生もなく生育は順調であり、現在は平年よりやや多めの出荷であるが、作付面積の減少もあり今後は平年並みの出荷の見込み。 ・茨城産の出荷が平年並みと見込まれることから、価格は4月以降平年の価格水準が上がる時期となることもあり、平年を上回っている価格は、平年並みに推移する見込み。
		68.70	70	104	77	77.96	・入荷見込量2,900t（99） ・主産地：長崎（26）、熊本（25）、茨城（24）、宮崎（16）	
	ほうれんそう	307.66	370	513	483	376.10	・入荷見込量：1,220t（102） ・主産地：茨城（35）、群馬（28）、埼玉（15）、千葉（12）	・茨城産は、生育は順調で作付面積の増加もあり、引き続き平年より多めの出荷の見込み。群馬産は、3月上中旬の天候不順と作付面積の減少により引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。埼玉産は、端境期を迎えていることに加え、他作物の播種作業等の影響で平年よりやや少なめの出荷となっているが、生育が順調であることもあり今後は平年よりやや多めの出荷の見込み。 ・群馬産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれるものの、茨城産及び埼玉産の出荷が平年よりやや多めと見込まれることから、価格は4月以降平年の価格水準が上がる時期となることもあり、平年を上回っている価格は、平年並みに近づく見込み。
		341.25	416	501	480	396.89	・入荷見込量：430t（97） ・主産地：岐阜（29）、徳島（28）、福岡（24）	
	レタス（結球）	199.64	202	200	178	156.23	・入荷見込量：7,670t（100） ・主産地：茨城（65）、兵庫（16）、香川（3）	・茨城産は、最近の低温と一部地域での干ばつによる影響から、現在は平年よりやや少なめの出荷であるが、今後は平年並みの出荷の見込み。兵庫産は、生育は順調で病害虫の発生もなく引き続き平年並みの出荷の見込み。 ・茨城産及び兵庫産の出荷が平年並みと見込まれることから、4月以降平年の価格水準が下がる時期となることもあり、価格は平年並みに推移する見込み。
		203.61	208	225	199	165.00	・入荷見込量：1,400t（93） ・主産地：兵庫（55）、徳島（13）、香川（13）	
	たまねぎ	76.15	108	103	99	91.24	・入荷見込量：14,090t（105） ・主産地：佐賀（50）、北海道（37）、輸入（4）	・佐賀産は、2月の低温で生育は停滞気味であったが、その後の気温上昇と降雨により玉肥大が進み、生育は順調で引き続き平年並みの出荷の見込み。北海道産は、倉庫に保管されて、計画的な出荷が行われており、今後も引き続き平年並みの出荷の見込み。 ・佐賀産及び北海道産の出荷が平年並みと見込まれることから、価格は4月以降平年の価格水準が上がる時期となることもあり、平年を上回っている価格は、平年並みに推移する見込み。
		76.15	101	98	94	91.24	・入荷見込量：4,400t（92） ・主産地：佐賀（44）、長崎（23）、北海道（16）、兵庫（12）	
果菜	きゅうり	253.93	442	395	306	253.93	・入荷見込量：7,020t（100） ・主産地：群馬（22）、埼玉（22）、千葉（15）、茨城（11）	・群馬産は、定植直後の天候不順により平年よりやや少なめの出荷であるが、今後は日照量の増加等に伴い、概ね平年並みの出荷の見込み。埼玉産は、作付面積の減少と最近の曇天の影響で生育に遅れがあることから引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。千葉産は、3月中旬以降、天候が安定していることから生育は順調で引き続き平年並みの出荷の見込み。 ・埼玉産の出荷が平年よりやや少なめの出荷と見込まれるものの、群馬産及び千葉産の出荷が平年並みと見込まれることから、平年を上回っている価格は、平年並みに近づく見込み。
		242.77	432	395	300	242.77	・入荷見込量：1,540t（107） ・主産地：宮崎（46）、徳島（18）、高知（17）、愛媛（7）	
	トマト（大玉）	339.78	466	468	424	339.78	・入荷見込量：7,620t（100） ・主産地：熊本（28）、栃木（24）、愛知（10）、千葉（6）、茨城（6）、埼玉（6）、福岡（4）、群馬（3）	・熊本産は、曇天の影響で平年よりやや少なめの出荷であり、一部で病気も散見されるものの大きな影響はなく、生育は概ね順調であることから、今後は平年並みの出荷の見込み。栃木産は、最近不安定な天候であるものの、低温と曇天の影響からは回復傾向となり、引き続き平年並みの出荷の見込み。 ・熊本産及び栃木産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、平年並みに近づく見込み。
		321.78	428	429	395	321.78	・入荷見込量：1,580t（113） ・主産地：熊本（71）、福岡（13）	
	なす	347.77	410	416	397	347.77	・入荷見込量：3,470t（100） ・主産地：高知（54）、福岡（20）、佐賀（5）、群馬（4）	・高知産は、最近は天候に恵まれて生育は順調で、今後は気温の上昇と日照時間の増加もあり、引き続き平年並みの出荷の見込み。福岡産は、天候不順による影響から生育に遅れが見られるが、花数も増えていることから、全体的には生育は順調で引き続き平年並みの出荷の見込み。 ・高知産及び福岡産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は平年並みに推移する見込み。
		330.95	400	410	382	330.95	・入荷見込量：850t（99） ・主産地：高知（34）、熊本（22）、福岡（18）、岡山（9）	
	ピーマン	551.24	659	651	641	308.36	・入荷見込量：2,350(100) ・主産地：茨城（55）、宮崎（22）、高知（14）	・茨城産は、2月下旬から3月上旬の天候不順により、現在は平年よりやや少なめの出荷であるが、最近は天候に恵まれて肥大が進んだことから、生育は概ね順調で今後は平年並みの出荷の見込み。宮崎産は、日照不足の影響から回復し特段の病害の発生もなく生育は順調であるため、引き続き平年並みの出荷の見込み。高知産は、出荷のピークを過ぎ微減傾向ではあるが病害虫の発生もなく生育は順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 ・茨城産、宮崎産及び高知産の出荷が平年並みの見込まれることから、価格は4月以降平年の価格水準が下がる時期となることもあり、平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。
		513.91	609	608	601	283.10	・入荷見込量：600t（98） ・主産地：宮崎（55）、高知（21）、鹿児島（9）、茨城（6）	
根菜	だいこん	79.03	82	70	73	86.59	・入荷見込量：12,580t（100） ・主産地：千葉（76）	・千葉産は、生育は順調で出荷の最盛期を迎えており、引き続き平年並みの出荷の見込み。 ・千葉産の出荷が平年並みと見込まれることから、価格は4月以降平年の価格水準が上がる時期となることから、平年を下回っている価格は平年並みに近づく見込み。
		80.47	78	78	84	94.24	・入荷見込量：3,200t（102） ・主産地：長崎（45）、鹿児島（30）、香川（14）	
	にんじん	101.05	87	103	115	156.99	・入荷見込量：8,650t（100） ・主産地：徳島（84）、輸入（1）	・徳島産は、降雨などの影響から出荷に遅れが出ているが、特段の病害もなく生育は順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 ・徳島産の出荷が平年並みと見込まれることから、価格は4月以降平年の価格水準が上がる時期となることもあり、現在概ね平年並みの価格は、平年より下回って推移する見込み。
		104.73	84	102	120	148.36	・入荷見込量：2,400t（169） ・主産地：徳島（68）、長崎（13）、鹿児島（10）、宮崎（7）	

種類		（参考）保証基準額の算定の基となる平均価格	３月の価格情報 指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価額 上旬	中旬	下旬	４月 （参考）保証基準額の算定の基となる平均価格	生育及び価格の4月中旬までの見通し	
いも	さといも	217.95	227	247	245	－	——	〈入荷量が少ないため、見通しは省略〉
		219.65	247	294	265	－	——	
	ばれいしょ	88.17	103	127	140	131.80	・入荷見込量：9,220（95） ・主産地：北海道（47）、鹿児島（46）	・北海道産は、現在は貯蔵品出荷の終盤を迎えているが、3月出荷が前倒傾向であったことに伴い、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。鹿児島産は、これまでの干ばつの影響による小玉傾向に加え、降雨による収穫の遅れもあり、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。 ・北海道産及び鹿児島産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれることから、価格は4月以降平年の価格水準が上がる時期となるものの、価格は引き続き平年を上回って推移する見込み。
		88.17	88	120	123	131.80	・入荷見込量：3,800t（78） ・主産地：鹿児島（68）、北海道（26）	



注：1 平年価格は、過去6年間の中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均で（消費税は除く。）保証基準額の算定の基となる価格。
2 旬別平均販売価額の赤字は平均価格を50%以上回るもの、背景ありは保証基準額（平均価格の90%）を下回るもの（消費税は除く。）。
3 単位は円／ｋｇ、上段は関東、下段は近畿ブロック。
4 入荷見込量は、関東農政局及び近畿農政局「野菜の入荷量と価格の見通し」による。（）内は前年対比。
5 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。（）内は入荷シェアであり、関東は本年の見込み、近畿は前年の実績。
6 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聴取りをもとに機構が作成したもの。
7 平成25年8月20日版より、平均価格と旬別平均販売価額を一部の品目につき細分化し、ねぎについては関東は白ねぎ、近畿は青ねぎ、レタスについてはレタス（結球）、トマトについてはトマト（大玉）の数値を用いている。

２　野菜の需要動向

家計調査によると、2月の１人当たりの生鮮野菜の購入数量は、4,609ｇで前年比99%、購入金額は、1,761円で同101%となった。
また、小売物価統計によると、3月のキャベツの小売価格は、153円で過去5か年平均比75%、レタスは、493円で同99%となり、キャベツは過去5か年平均を下回った一方で、レタスはほぼ過去5か年平均並みとなった。

生鮮野菜の購入数量及び購入金額（１人当たりの購入数量と購入金額）

年	過去5カ年平均 購入数量（g）	過去5カ年平均 購入金額（円）	平成26年 購入数量（g）	平成26年 購入金額（円）	平成27年 購入数量（g）	平成27年 前年比	平成27年 購入金額（円）	平成27年 前年比
1月	4,272	1,640	4,379	1,775	4,374	100	1,755	99
2月	4,485	1,666	4,646	1,742	4,609	99	1,761	101
3月	4,868	1,811	4,958	1,878				
4月	4,765	1,855	4,871	1,887				
5月	5,089	1,917	5,146	1,993				
6月	5,056	1,902	4,998	1,976				
7月	4,402	1,737	4,542	1,770				
8月	4,315	1,731	4,275	1,846				
9月	4,688	1,844	4,745	2,035				
10月	5,191	1,902	5,455	1,973				
11月	4,990	1,700	5,291	1,704				
12月	5,146	1,927	5,233	1,977				

資料：総務省「家計調査報告（二人以上世帯（農林漁家世帯を除く））」
注：過去5カ年平均は、平成22～26年の平均。

主要野菜の小売価格（東京都区部）

（単位：円／ｋｇ）

	キャベツ 過去５カ年平均	キャベツ 平成27年	キャベツ 5カ年比（%）	レタス 過去５カ年平均	レタス 平成27年	レタス 5カ年比（%）
1月	212	229	108	684	827	121
2月	222	202	91	631	576	91
3月	205	153	75	500	493	99
4月	243			453		
5月	163			365		
6月	137			317		
7月	160			332		
8月	138			400		
9月	158			591		
10月	174			469		
11月	164			429		
12月	172			546		

資料：総務省「小売物価統計調査報告」
注：1 過去5カ年平均は、平成22～26年の平均。
2 平成27年3月の値は、3月中旬の速報値。

３　野菜の輸入動向

2月の野菜の輸入を貿易統計で見ると、生鮮野菜は、前年同月比83%の7万トン、加工野菜は同112%の13万4千トン、野菜全体は、同100%の20万4千トンとなった。このうち中国産野菜合計は118%の10万8千トンとなった。
生鮮野菜が前年を下回った一方で、加工野菜は前年を上回ったことから、野菜全体ではほぼ前年並みとなった。

野菜の輸入数量

（単位：トン、%）

区分	平成25年	前年比	平成26年	前年比	平成27年1月～2月	前年同期比	平成27年2月	前年同月比
生鮮野菜	854,042	90	884,788	104	132,494	75	69,681	83
加工野菜	1,854,162	97	1,785,054	96	276,657	95	134,460	112
野菜合計	2,708,205	95	2,669,841	99	409,150	87	204,141	100
うち中国産野菜合計	1,415,762	97	1,409,144	100	223,605	95	108,297	118
中国産シェア	52		53		55		53	

資料：農畜産業振興機構「ベジ探」、原資料：財務省「貿易統計」

主な野菜の輸入数量

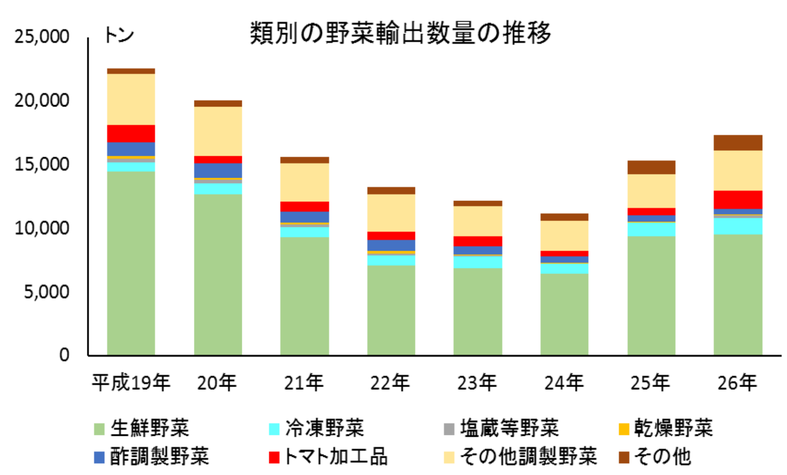
（単位：トン、%）

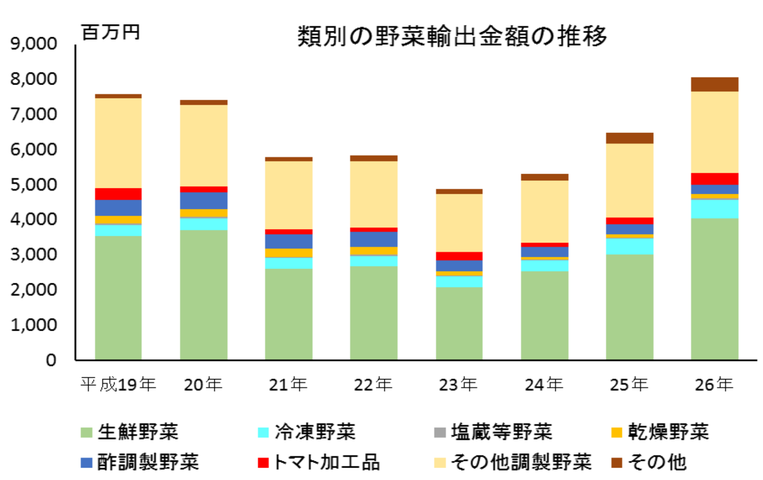
品目	輸入先		平成26年2月（A）	平成27年2月（B）	（B）／（A）
たまねぎ	合計		28,976	24,136	83
		中国	21,478	19,123	89
		米国	3,975	3,441	87
にんじん	合計		5,737	3,579	62
		中国	3,825	2,561	67
		ベトナム	609	795	131
ねぎ	合計		4,805	3,866	80
		中国	4,744	3,847	81

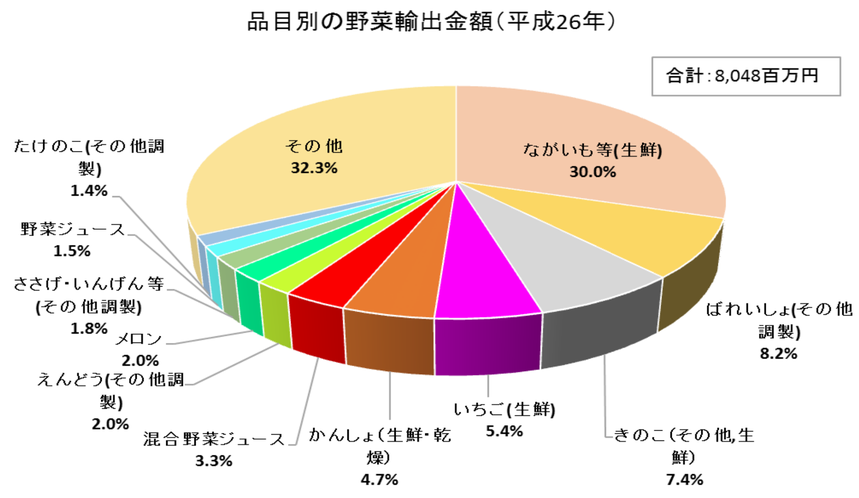
資料：農林水産省「植物防疫統計」
注：平成27年2月は速報値。

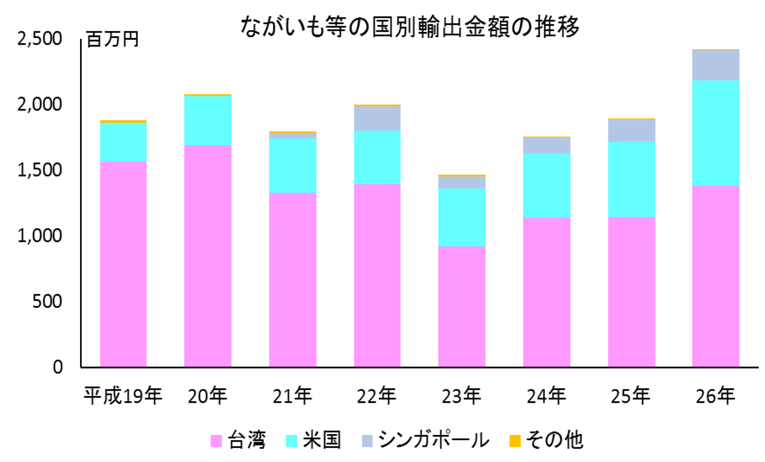
４　トピック ―　平成26年の野菜輸出動向について　―

野菜全体の輸出数量は、平成19年のいわゆるリーマンショック後の景気後退、23年の震災を契機とする輸出先国の放射線物質検査など輸入規制措置の影響等により減少傾向であったが、25年は、生鮮ながいも、生鮮きのこ類の増加により増加に転じ、平成26年も前年比13%増の17千トンとなった。
一方、輸出金額は、前年比24%増の80億円となり、平成19年（76億円）をも上回る過去最高となった。類別では、生鮮野菜が過去最高の40億円、次いで、その他調製野菜が23億円、冷凍野菜が5億円となった。品目別では、ながいも等（生鮮野菜）が輸出金額の30%を占め、次いで、ばれいしょ（その他調製野菜）、きのこ（その他の調製野菜、生鮮品）、いちご（生鮮野菜）が続き、これら上位4品目で輸出金額の51%を占めた。
野菜全体の輸出先国をみると、64カ国へ輸出されたが、輸出金額ベースで見ると、台湾（31%）、香港（24%）、米国（22%）、シンガポール（8%）の上位4カ国で85%を占めた。
生鮮野菜の中では、ながいも等（24億円）、いちご（4億円）、メロン（2億円）が大幅に増加しており、特に伸びが著しい、いちご（前年比94%増）、メロン（同60%増）は、香港がそれぞれ86%、85%を占めた。
ながいもは、最大の輸出先国である台湾（26年シェア：57%）では、地元産の品質向上などもあって平成20年～23年は減少したものの、その後再び増加しており、特に米国（同33%）は、ほぼ一貫して増加傾向にある。
農林水産省の平成27年度の青果物輸出拡大方針（平成27年1月）では、オールジャパンの輸出拡大に向けて、品目間・産地間の連携による多品目周年供給体制や輸出団体設立の検討が指摘されており、今後の取組の推進が期待されている。









資料：農畜産業振興機構「ベジ探」、原資料：財務省「貿易統計」

●問い合わせ先 独立行政法人農畜産業振興機構 野菜需給部　需給業務課 前川、河原、斎藤、海老沼　TEL03-3583-9483、FAX03-3583-9484　ご意見、ご要望をお寄せください。
◆「野菜の需給・価格動向レポート」は月2回公表しています。公表時にメルマガでお知らせしますので、ご希望の方はベジ探のトップ画面、メルマガ配信登録・解除ボタンから登録してください。
★この「野菜の需給・価格動向レポート」は、http://vegetan.alic.go.jp/vegetable_report.html に掲載しています。